

精神療養(開放)病棟における 長期入院者への 退院支援の実際

長野祐子

中村一恵

今井佐千子

太田秀造

医療法人耕仁会



札幌太田病院

1. 病棟別の年齢構成 (H24年6月1日現在)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
精神療養 (開放)病棟 57名	1	2	1	6	17	16	14
精神療養 (閉鎖)病棟 54名	0	1	3	5	13	20	12
ストレスケア 病棟 49名	2	7	8	13	6	8	5

2. 病棟別の入院期間 (H24年6月1日現在)

	～ 1ヶ月	1～ 3ヶ月	3～ 6ヶ月	6～ 12ヶ月	1～5 年	5～10 年	10年 ～
精神療養 (開放)病棟 57名	0	3	8	12	17	11	6
精神療養 (閉鎖)病棟 54名	1	6	8	8	15	11	5
ストレスケア 病棟 49名	25	19	4	0	0	1	0

3. 長期入院の背景

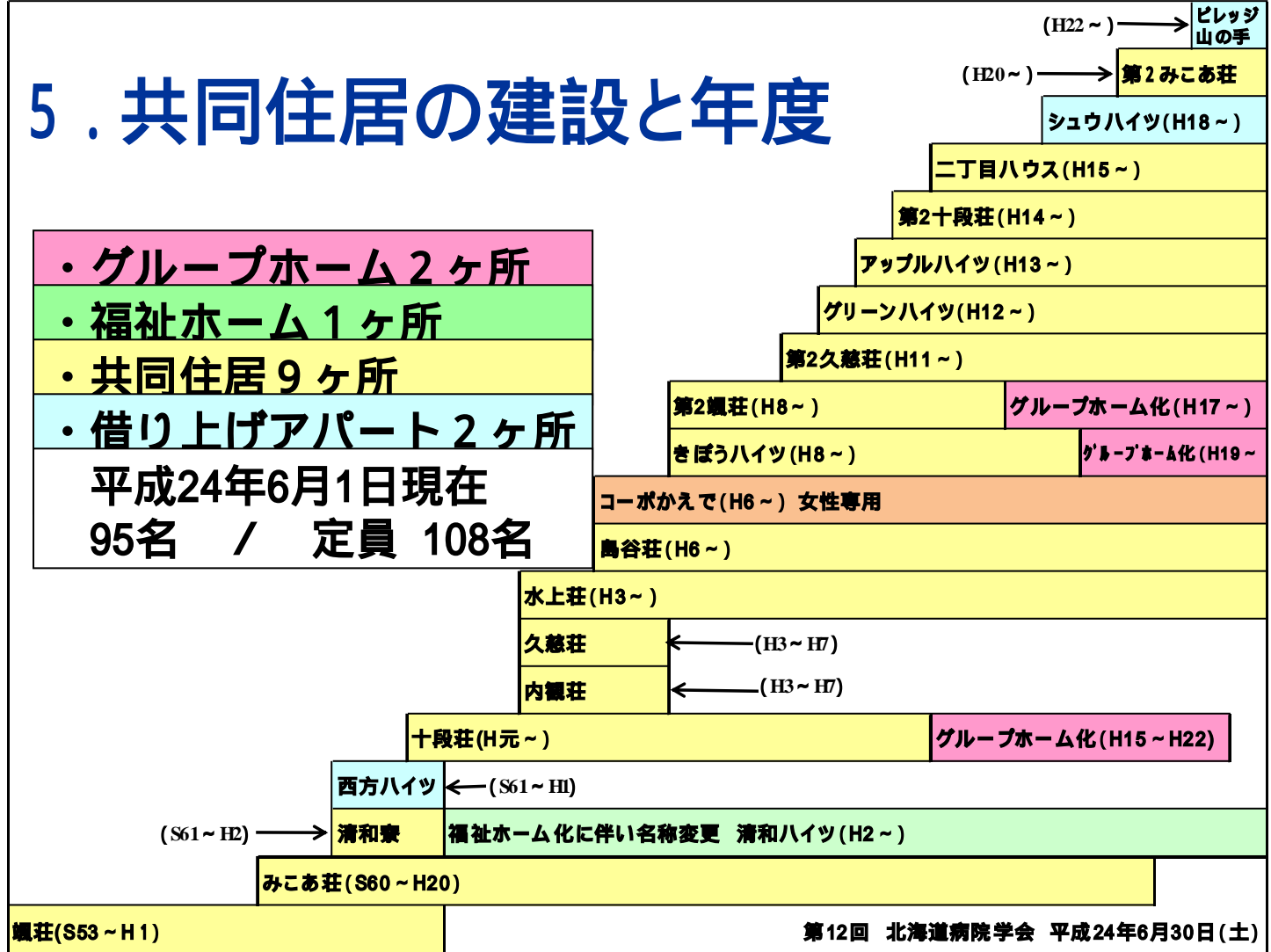
- 症状の慢性化・無為自閉傾向
- 身体合併症（特に糖尿病）
- 高齢化に伴う生活能力の低下
- 自立生活への不安
- 病院、職員への依存
- 家族も高齢化のため同居が困難
- 職員の現状依存傾向

4 . 退院支援活動の歴史

- 昭和53年初の共同住居を設立、退院支援を開始
- 平成20年6月、社会復帰支援委員会を発足
- 多職種(医療職、医事課、共同住居管理人など)で週1回委員会を開催
- 退院促進の10段階を作成、職員の意識改革、段階別に小集団への生活指導、社会参加を実施
- 退院までの30段階チェック表で、個別の生活能力を評価、課題と支援を明確化

5. 共同住居の建設と年度

- ・グループホーム 2ヶ所
 - ・福祉ホーム 1ヶ所
 - ・共同住居 9ヶ所
 - ・借り上げアパート 2ヶ所
- 平成24年6月1日現在
95名 / 定員 108名



6. 退院までの30段階チェック表(一部)

	評価年月日 ×で記入	5/10	/	/	備考
1	自分で朝、起きられる				
2	起床後整容ができています				
3	身の周りの片付け、清掃ができる				
4	食事をきちんと摂れる(偏らず、規則正しく)				
5	入浴が自立している				
6	必要時着替えをし、洗濯ができる				
7	排泄が自立している(便秘、下痢時の対処ができる)				
8	状況・四季にあった服装がとれる				
9	金銭管理ができる / 小遣い帳(つけてる・つけてない)	×			
10	日中活動できている(プログラムの参加)				

評価 9	多飲水あり、体重管理、飲水量の制限、一日水分摂取量の目標、疾患教育「水中毒」
------	--

7. 退院支援の10段階

- 第1 本人、家族への説明:心の準備
- 第2 集団で共同住居・アパート見学、食器洗淨療法
- 第3 社会資源・支援について、
多職種から説明(退院までの流れ)
- 第4 先輩退院者から体験談を聴く交流
- 第5 服薬自立支援、危機管理指導、院内コンビニの活用指導
- 第6 デイ・ナイトケア試験通所
- 第7 ケースカンファレンス(Dr.Ns.PSW.DC.訪看.家族)
- 第8 試験外泊
- 第9 退院準備、家具の購入など
- 第10 退院(退院後の支援)

8. まとめ

- H23年度 精神療養(開放)病棟から退院者58名
(うち入院5年以上 3名)
- 退院までの30段階チェック表の活用で、退院支援が具体化した
- 退院者と入院者の交流が、プラスの集団力動となり、個人の退院意欲を引き出す
- 入院中から支え合う仲間づくりをすることが退院生活への不安を解消し、通院、デイ・ナイトケア、共同作業所へ継続参加可能となる
- 多職種での社会復帰支援が、長期入院者や単身者の心の支えとなり、再発・再入院を防止し、地域生活が可能となる

9. 開放病棟からの 退院者・退院先 内訳

	退院者総数	平均年齢	入院期間
H19年	7人	59才	7ヵ月
H20年	52人	55才	9ヵ月
H21年	60人	51才	8ヵ月
H22年	49人	55才	9ヵ月
H23年	48人	57才	4ヵ月
H24年 (1~5月)	26人	56才	16ヵ月
合計	242人	55.5才	8.8ヵ月

